日本キリスト教団
三軒茶屋教会
http://sanchurch.jp/

三軒茶屋
教会通り

第49号　2014年8月発行
〒154-0024
東京都世田谷区三軒茶屋1-31-5
TEL／FAX：03-3418-4933
発行：三軒茶屋教会　広報部

奉仕の秩序

牧師　伊藤英志

教会は、互いに奉仕し合うという聖書の教えをその歴史の中で体現してきた。

教会を維持運営していくための奉仕、教会に属する者たちの間での奉仕、教会の外にあるニーズに向かっての奉仕。どれも、主イエスの教えを実践しようとする奉仕であることに変わりはない。

では、「これは奉仕だ」と思えるのであれば、見境なく何でも実行に移そうとしてよいのだろうか。

聖書での「奉仕」には、言葉の上では二面性を含んでいる。すなわち、上からの命令によって隷属状態の下でなされる強いられた奉仕と、誰かが指示したわけでもないのに自発的な意志に基づく奉仕である。

聖書における奉仕は、語源的には、「食事での給仕としての働き」という概念にさかのぼる。そこから、生計のための配慮としての奉仕、そして一般的な意味での他者への奉仕という意味合いへと拡大していった。

古代の上流階級の食卓には、常に給仕がいた。食卓についている主人に誠実に給仕する僕（奴隷）という依存と従属の関係が、他者への奉仕という概念を発展させていった。

奉仕とは、誰かを喜ばそうとするための行いか。誰かから誉め言葉や快い評価をもらおうとするためか。それとも自分が満足するためか。楽しい充実した時を過ごすためか。

確かに、人間であれば誰かのお役に立ちたいという願望は誰でも持っている。誰からも頼りにされず、何も期待されていないと悟った人は、哀れだ。生きる力も弱まってしまう。

そういう意味では、人間を健やかにしていく奉仕の実践は、教会の中に限定される話ではなくなるだろう。誰もが何かに、誰かに、確実に仕えていけるための奉仕には、何らかの秩序立てが必要になる。

教会の主は、イエス・キリストである。教会での奉仕は、御自身の命を十字架で お献げになった主イエスに倣って、自分を差し置いて主イエスに、そして自分の隣人に仕えることが出発点となる。

では、今日において主イエスに仕えるとは何を意味するだろうか。

教会での奉仕には、明確な秩序がある。その原点は、聖餐である。

人々の生き方が最も現れ出る領域なのだ。従って、聖餐の秩序を軽んじる教会では、そこでの奉仕の秩序も軽んじられていき、人為的な思惑が「奉仕のように見えること」を支配していく。

主イエスが給仕してくださる正しい聖餐の秩序に基づくところに、御心に適う奉仕の秩序もおのずと整えられていく。教会の奉仕とは、聖餐卓を囲む礼拝の秩序に支えられてこそ、真の奉仕となって現れるのだ。

教会は主イエスが給仕してくださる聖餐卓を囲んで主日礼拝を守る信仰共同体である。

最後の晩餐で弟子たちに向かって主に仕え合うようにと教えた主イエスが、わたしたちの命のために奉仕してくださっている。わたしたちも、聖餐卓を囲みながらこの現実を深く味わっている。

聖餐卓に座って給仕しておられる主イエスが、わたしたちに奉仕しておられる。だから、この恵みを受けているわたしたちも互いに奉仕し合ってゆける。

教会での奉仕とは、聖餐の恵みに支えられ、励まされ、喜びとともに力強く遣わされていく